

多文化共生に関する医療機関アンケート調査結果（単純集計）

1 調査の目的

外国人市民の受入環境整備等の多文化共生施策に生かすことを目的として実施した。

2 対象

丹波市オープンデータサイトにて「医療機関一覧」で公開されている医療機関（歯科除く）

3 実施方法

上記の対象者にアンケート調査についての依頼を行い、アンケート調査票またはWEBで回答

4 調査期間

令和7年2月14日～令和7年2月28日

5 回答結果

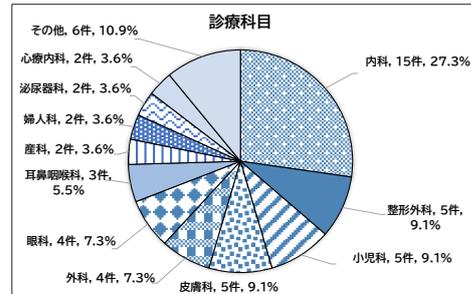
配布数 38件

回答数 29件

回答率 76.3%

Q1 貴院(貴所)で診療できる科目を教えてください(複数回答可)

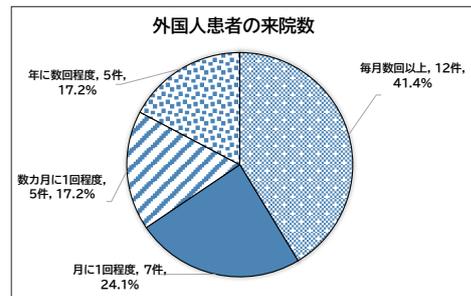
内科	15件
整形外科	5件
小児科	5件
皮膚科	5件
外科	4件
眼科	4件
耳鼻咽喉科	3件
産科	2件
婦人科	2件
泌尿器科	2件
心療内科	2件
その他	6件
計	55件



その他の内容	
アレルギー内科	
漢方科	
精神科	
胃腸科	
市内の医師の輪番により当日の担当医が決まるため、当日の診療できる科目はその担当医による。	
脳外科	

Q2 外国人患者の来院頻度について、過去1年間で外国人患者の来院数はその程度でしたか。

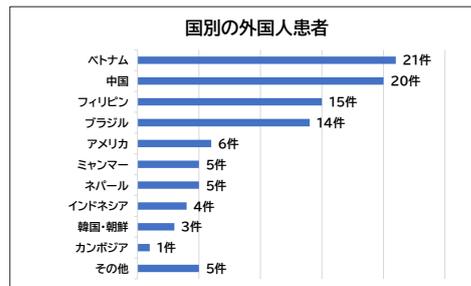
毎月数回以上	12件
月に1回程度	7件
数カ月に1回程度	5件
年に数回程度	5件
1度も来院がない	0件
計	29件



Q3 分かる範囲で、来院された外国人患者の国を選んでください(複数回答可)

※Q2にて、「1度も来院がない」以外を選んだ場合に回答

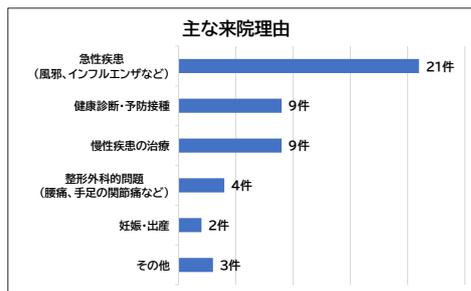
ベトナム	21件
中国	20件
フィリピン	15件
ブラジル	14件
アメリカ	6件
ミャンマー	5件
ネパール	5件
インドネシア	4件
韓国・朝鮮	3件
カンボジア	1件
その他	5件
計	99件



その他の内容	
イギリス、フィンランド	
タイ	
メキシコ	
ドイツ	

Q4 外国人患者の主な来院理由は何ですか(複数回答可)

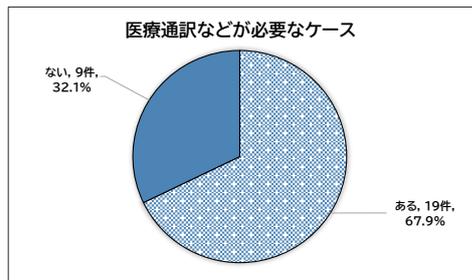
急性疾患(風邪、インフルエンザなど)	21件
健康診断・予防接種	9件
慢性疾患の治療	9件
整形外科的問題(腰痛、手足の関節痛など)	4件
妊娠・出産	2件
その他	3件
歯の治療	0件
計	48件



その他の内容	
精神的疾患の治療	
眼科検診、白内障	

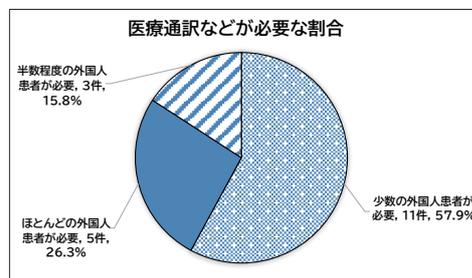
Q5 外国人患者に対して、医療通訳など(一般的な内容の通訳も含む)が必要なケースはありましたか。

ある	19件
ない	9件
計	28件



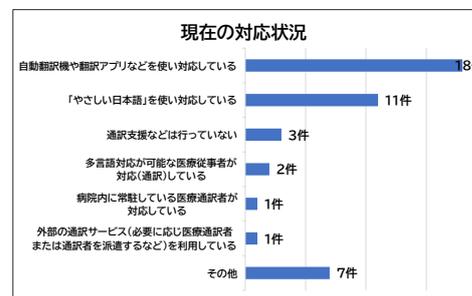
Q6 設問5で「ある」を選択された場合にお聞きます。医療通訳など(一般的な内容の通訳も含む)を必要とする外国人患者の割合はどのくらいですか。

少数の外国人患者が必要	11件
ほとんどの外国人患者が必要	5件
半数程度の外国人患者が必要	3件
計	19件



Q7 医療通訳など(一般的な内容の通訳も含む)について、現在の対応状況を教えてください(複数回答可)

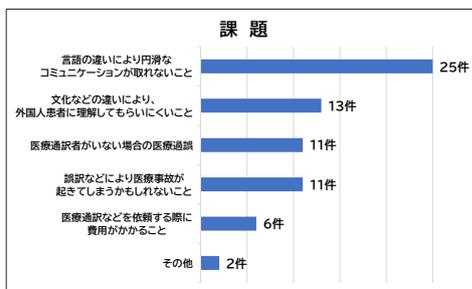
自動翻訳機や翻訳アプリなどを使い対応している	18件
「やさしい日本語」を使い対応している	11件
通訳支援などは行っていない	3件
多言語対応が可能な医療従事者が対応(通訳)している	2件
病院内に常駐している医療通訳者が対応している	1件
外部の通訳サービス(必要に応じ医療通訳者または通訳者を派遣するなど)を利用している	1件
その他	7件
症状等を指差して回答できる多言語ボードなどを使い対応している	0件
計	43件



その他の内容
付き添いの人がしている
付き添いの通訳と一緒に来院
付き添いの家族が通訳
患者の会社の通訳に初診時には来てもらう
家族に日本語を話せる人がいれば通訳してもらう
日本人家族や同僚の同席通訳
患者さんの知人などが一緒に来院、通訳

Q8 外国人患者とのコミュニケーションや医療通訳など(一般的な内容の通訳も含む)について、どのような課題を感じますか(複数回答可)

言語の違いにより円滑なコミュニケーションが取れないこと	25件
文化などの違いにより、外国人患者に理解してもらいにくいこと	13件
医療通訳者がいない場合の医療過誤	11件
誤訳などにより医療事故が起きてしまうかもしれないこと	11件
医療通訳などを依頼する際に費用がかかること	6件
その他	2件
計	68件

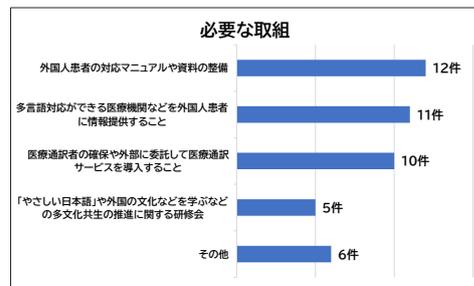


その他の内容
インフォームド・コンセントの限界

Q9 医療通訳などの体制を整備するうえで、どのような取組が必要だと思いますか(複数回答可)

外国人患者の対応マニュアルや資料の整備	12件
多言語対応ができる医療機関などを外国人患者に情報提供すること	11件
医療通訳者の確保や外部に委託して医療通訳サービスを導入すること	10件
「やさしい日本語」や外国の文化などを学ぶなどの多文化共生の推進に関する研修会	5件
その他	6件
計	44件

その他の内容	
AIで可	
通訳できる人が付き添えばいいと思う	
通訳者の費用負担を誰が行うか	
問診票や予防接種予診票、多言語ボードなど外国語に翻訳されたものの作成や各医療機関への共有	
特に診療所のレベルでは困る時ありません	
戦争や災害で緊急に外国の人を受け入れる場合は別として、ある程度日本語が出来るようになった人を受け入れるようにすべき。	



Q10 その他、多文化共生、外国人患者などについてのご意見等がありましたら、お書きください。

今現在は通訳の方が同伴している。英語以外では対応は難しく、自動翻訳機があれば何とか可能かもしれないが、通訳の同伴が好ましい。
クリニック単位での通訳確保は現実的ではないので、今後は行政などの対応が必要になると考える。
文化は好みで自由だが政治的思想や宗教の共生が世界的に問題になっている。
本人が日本語を理解できなくても、日本語が理解できる家族や友人が付添う場合が見受けられるので、日本語が理解できない方については、孤立させずにコミュニティに結び付けることが大切なのではと感じる。